

2014年度第1回 ICCEEDセミナー

# 大学による国際協力 — 課題と展望 —

2014年7月18日

佐野 景子

独立行政法人国際協力機構(JICA)  
人間開発部次長兼高等教育・社会保障グループ長

<http://www.jica.go.jp>

国際協力機構

## 説明の流れ

---

- I. 国際社会の状況
- II. 高等教育の状況
- III. 今後の方向性、大学への期待

# I. 国際社会の状況

## I. 国際社会の状況：日本を取り巻く国際環境の変化

---

### 政治安全保障上の環境の変化

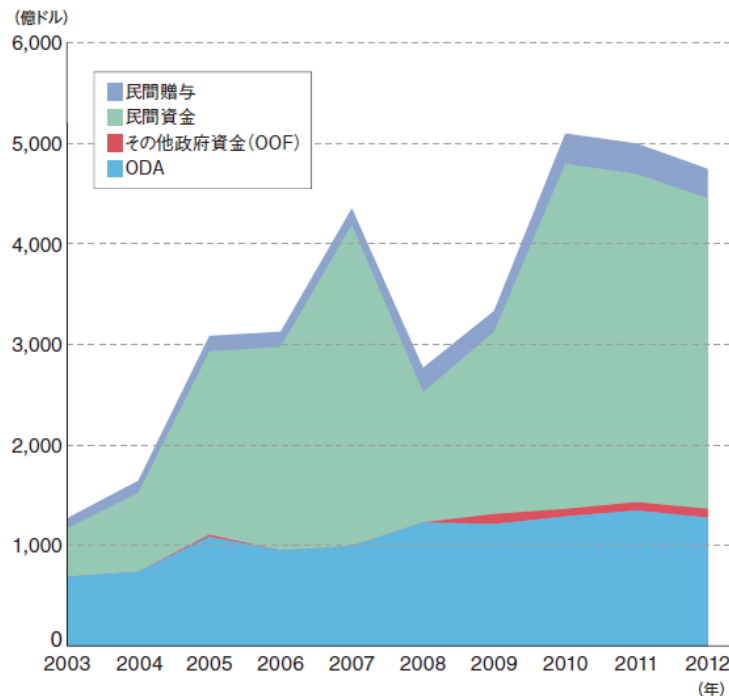
- ・民主化・民主的な体制、法の支配を求める動き

### 経済開発面での環境の変化

- ・途上国が新たな投資先・市場→経済成長を実現
- ・世界の多様化・多極化  
(紛争・内戦等による開発の遅れ、国内格差による貧困問題)
- ・様々なリスク  
(先進国発のみならず、テロ等の途上国発リスク)

# I. 国際社会の状況：途上国への民間資金の流入

先進国から途上国への資金フロー（名目値）



出典：DAC統計 (DAC Statistics on OECD.STAT)  
名目値：為替・物価変動による調整をしない値

国際協力機構

# I. 国際社会の状況：開発の遅れ・格差の拡大

8つのMDGs



極度の貧困と  
飢餓の撲滅



ジェンダーの平等の推進と  
女性の地位向上



妊産婦の健康の改善



持続可能な環境の確保



普遍的初等教育  
の達成



乳幼児死亡率の削減



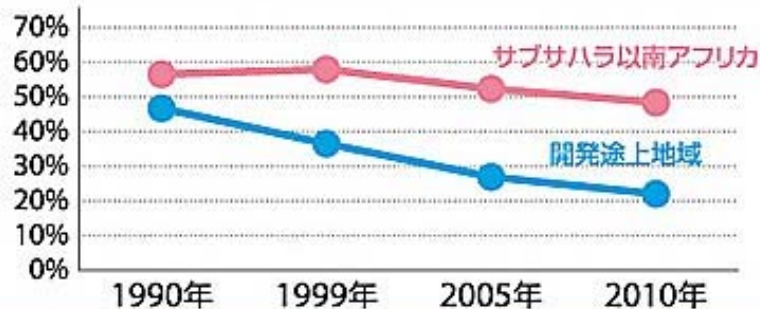
HIV/エイズ、マラリアおよび  
その他の疾病の蔓延防止



開発のためのグローバル・  
パートナーシップの推進

ロゴ作成：NPO 法人「ほっとけない世界のまずしさ」

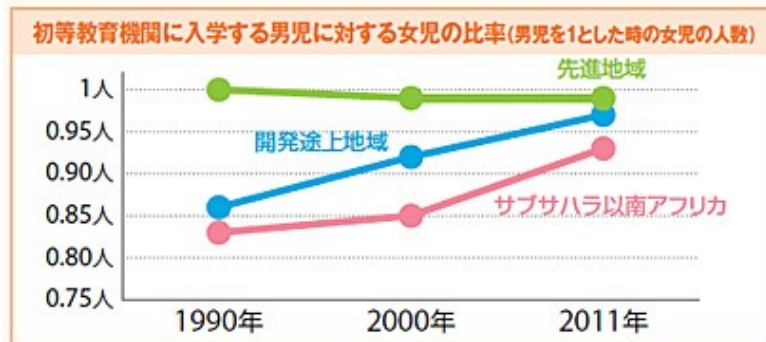
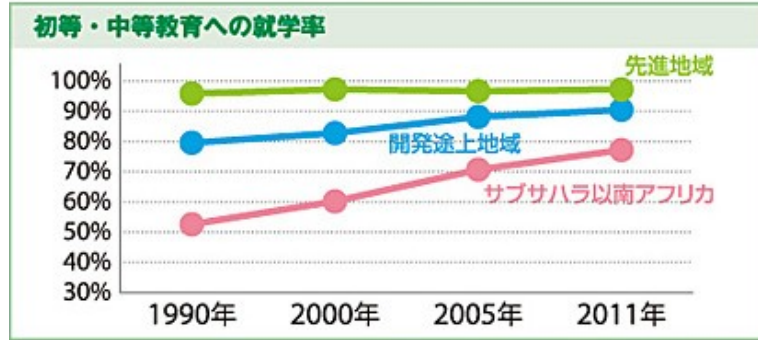
1日1.25米ドル未満で生活する人々の割合



出典：The Millenium Development Goals Report 2013

国際協力機構

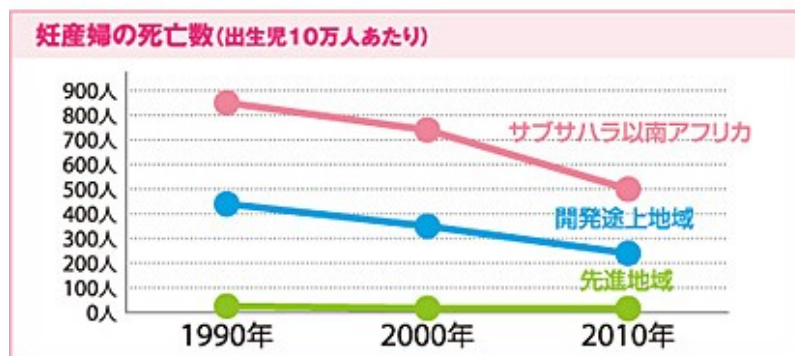
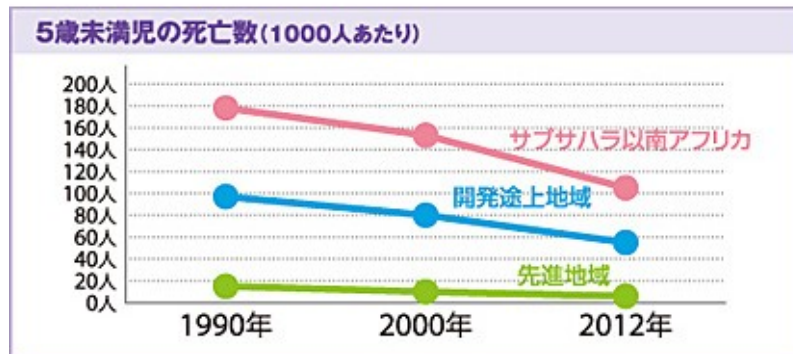
# I. 国際社会の状況：開発の遅れ・格差の拡大



出典: The Millenium Development Goals Report 2013

国際協力機構

# I. 国際社会の状況：開発の遅れ・格差の拡大

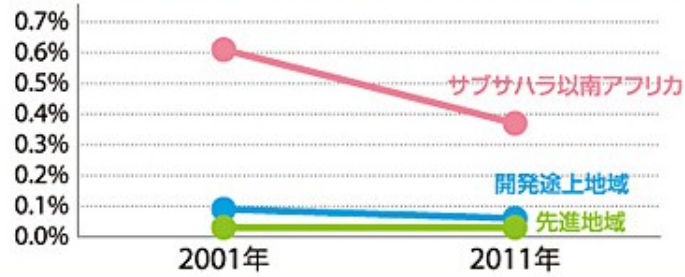


出典: The Millenium Development Goals Report 2013

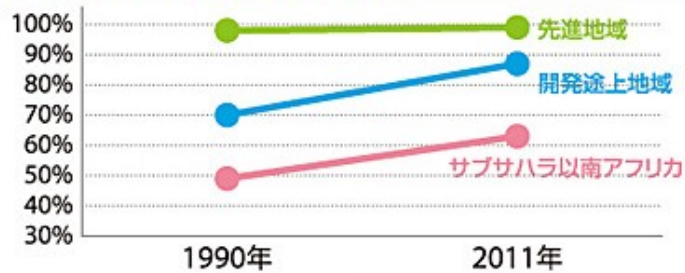
国際協力機構

# I. 国際社会の状況：開発の遅れ・格差の拡大

HIV発生率(15歳から49歳の100人あたりの年間新規HIV感染者数の推定値)



改善された水源を利用する人々の割合

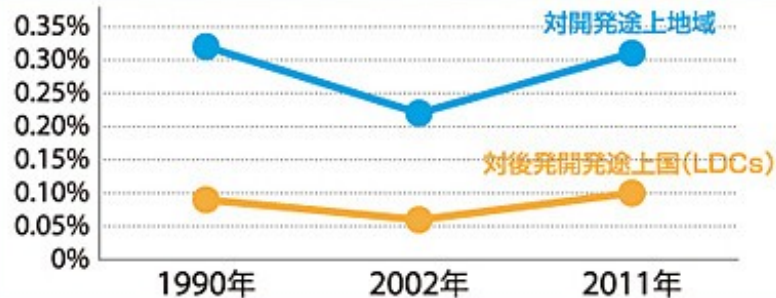


出典: The Millenium Development Goals Report 2013

国際協力機構

# I. 国際社会の状況：開発の遅れ・格差の拡大

ドナー国の国民総所得(GNI)に占める政府開発援助(ODA)の割合



出典: The Millenium Development Goals Report 2013

# I. 国際社会の状況：共通の課題・相互学習

例えば高齢化 ⇒ 日本特有の問題でなく、多くの途上国が直面している課題

国名	2010年	2050年	国名	2010年	2050年
日本	23%	38%	インドネシア	6%	16%
アルゼンチン	11%	19%	ミャンマー	5%	15%
チリ	9%	24%	マレーシア	5%	14%
タイ	9%	25%	インド	5%	13%
ブラジル	7%	23%	カンボジア	4%	12%
メキシコ	6%	20%	ラオス	4%	12%
ベトナム	6%	23%	フィリピン	4%	9%

■ 人口に占める65歳以上の割合  
(出典: 国連 2010 Revision of the World Population Prospects)

高齢者人口の割合が2010年から2050年の間に3倍以上になる国もある

【JICAが実施中  
および準備中の案件】

**タイ**  
 ■ コミュニティにおける高齢者向け保健医療・福祉サービスの統合型モデル形成(技プロ)(CTOP)(2007-2011)  
 ■ 要介護高齢者等のための介護サービス開発(技プロ)(LTOP)(2013-2017)  
 ★ 初の介護モデル構築プロジェクト。高齢者も活動の担い手。地域資源を活用した公的介護制度として在宅サービスのモデルを開発。政策提言へ。

**マレーシア (2014-2016)**  
 ■ 高齢化社会に向けた地域社会に根差したプログラム及び社会的支援の構築  
 ★ 高齢者の社会参加、生きがい就労、エンパワメント、高齢者ボランティア

**ラオス、カンボジア、ミャンマー、タイ等**  
 高齢化対策課題別研修(2014-2016)  
 ★ 行政官への知見・経験共有  
 ASEAN 諸国全般  
 社会保障行政研修等、課題別研修多数実施

**ベトナム**  
 社会保障基礎情報収集調査(2014)  
 社会保障セミナー(2013, 2014)  
 2014年夏の要望調査に向け調整中

**インドネシア (2014-2017)**  
 社会保障制度強化(技プロ)  
 ★ 公的医療保障 UHC、所得保障等、現業部門と財政部門の対話

国際協力機構  
<https://www.asean.or.jp/asean/know/country/>

# I. 国際社会の状況：高等教育への期待

成長の源泉は、知識・技術の活用や新たな知識の創出を通じてイノベーションを起こすこと

- ・ 高度な産業人材の育成
- ・ 科学技術の振興
- ・ 国際的な情報ネットワークへの参加
- ・ イノベーション力の強化

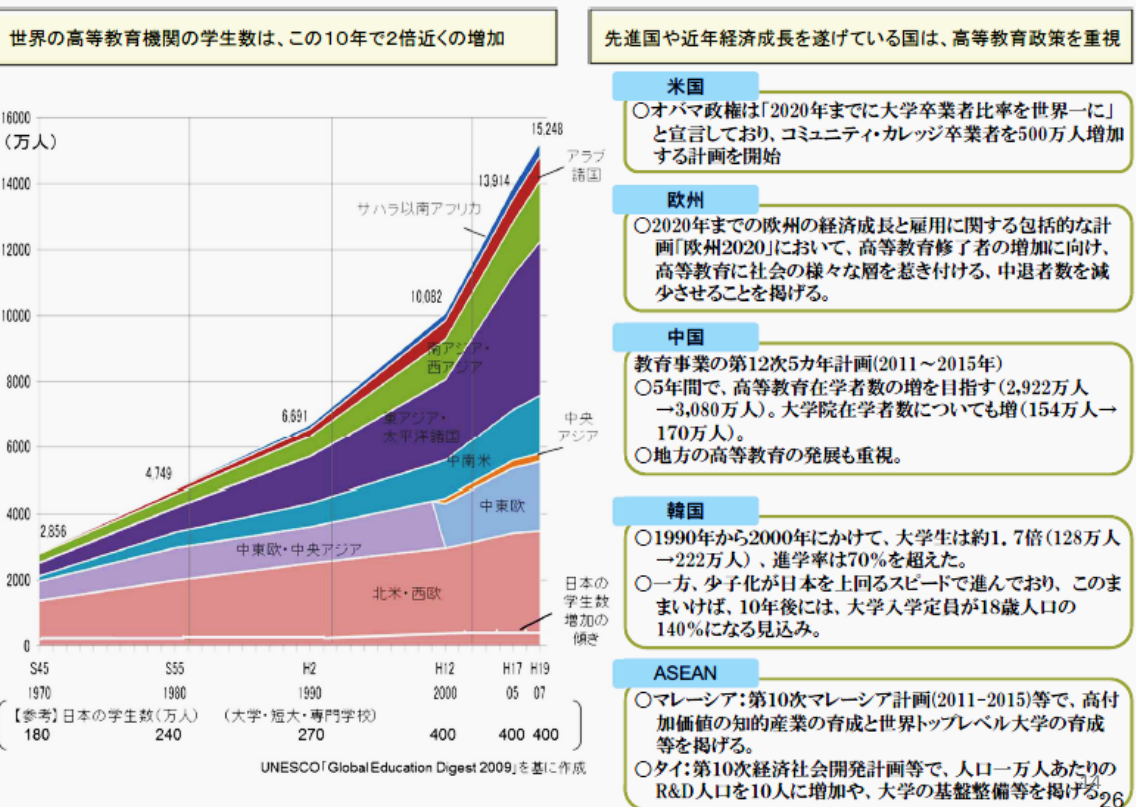
⇒ 高等教育が重要な役割を担うという期待

## II. 高等教育の状況

国際協力機構

## II. 高等教育の状況：世界の状況

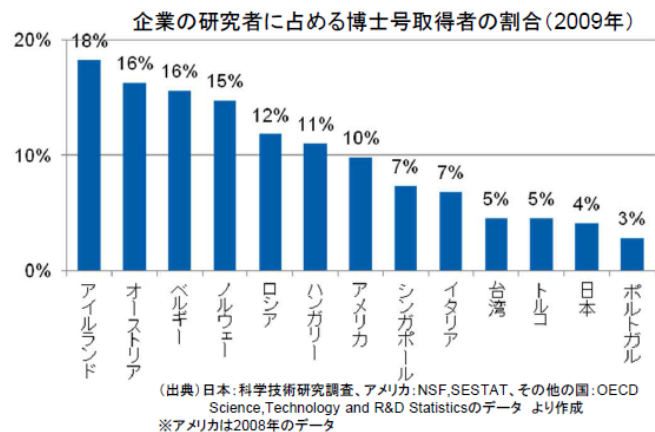
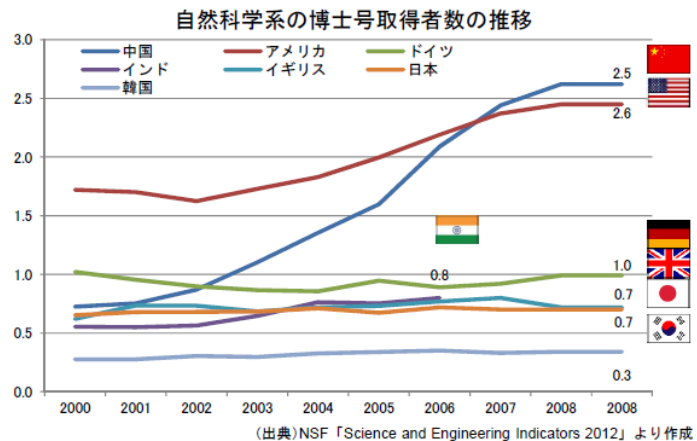
### 諸外国の成長戦略における高等教育の役割



## II. 高等教育の状況：世界の状況

QS大学世界ランキング・アジア工学系  
100位リストに見るSEED-Net参加大学  
(2012年)

1. 東京大学
2. 国立シンガポール大学
4. 京都大学
5. 東京工業大学
8. ナンヤン工科大学
15. 大阪大学
16. 東北大学
25. 名古屋大学
27. バンドン工科大学
31. チュラロンコン大学
32. 早稲田大学
35. 九州大学
37. マラヤ大学
39. 北海道大学
42. マレーシア工科大学
48. 慶應義塾大学
51. マレーシア・プトラ大学
52. インドネシア大学
55. ガジャマダ大学
73. スラバヤ工科大学
81. タマサート大学
83. カセサート大学
86. モンクット王工科大学ラカバン校



## II. 高等教育の状況：日本の状況

### 「グローバル人材育成のための教育政策課題」 (第7回産業競争力会議 2013年4月)

- ✓ 国際バカロレア導入促進、初中教育段階でのトップ層引き上げのための取組みなど、グローバルJr.の育成
- ✓ 入試へのTOEFL等活用など、使える英語力の修得
- ✓ 国、企業、個人が協力して日本人の海外留学を支援する仕組みの創設など、経済的負担の軽減
- ✓ 海外20都市程度の重点地域設定による優秀な外国人留学生の戦略的獲得と活用
- ✓ スピード感を持ってグローバル化を断行し世界と競う大学の重点支援



## II. 高等教育の状況：日本の状況

### 「これからの大学教育のあり方」 (教育再生実行会議第三次提言、2013年5月)

1. **グローバル化に対応した教育環境づくり**
  - ✓ 国際化により世界に伍して競う大学をつくる
  - ✓ 日本人留学生12万人、外国人留学生30万人
  - ✓ 初中等教育のグローバル化
  - ✓ 日本人のアイデンティティと日本文化の発信
  - ✓ グローバル化対応の特区制度活用
2. **イノベーション創出のための教育・研究環境づくり**
  - ✓ 理工系人材育成戦略の策定/実施、大学院教育充実、産学連携促進他
3. **学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能の強化**
4. **社会人の学びなおし機能の強化**
5. **大学のガバナンス改革、財政基盤の確立による経営基盤の強化**

国際協力機構

## II. 高等教育の状況：途上国の状況

1. **高等教育の急速な拡大による多様化と質の低下**
  - ✓ 高度人材需要の高まりと初・中等教育の拡充による高等教育の量的拡大
  - ✓ 国・地域間の格差拡大・多様化、高等教育機関の役割や質の多様化
  - ✓ 厳しい財政状況、教育や研究の質の低下
2. **高等教育セクターの国際化と頭脳流出**
  - ✓ 高等教育セクターの急速なグローバル化
  - ✓ 留学生、研究者の移動の増加と頭脳流出
  - ✓ 教育の質保障や互換性向上のニーズの拡大
3. **知識基盤経済における高等教育の役割**
  - ✓ ナレッジやイノベーションが成長の源泉となる知識基盤社会の出現
  - ✓ 高度な産業人材の育成

日本とも共通する課題

国際協力機構

アジェンダ 1

**教育活動の改善**

アジェンダ 2

**研究機能の強化**

アジェンダ 3

**社会（産業界・地域社会）への  
貢献の促進**

アジェンダ 4

**マネジメントの改善**

1960-1980年代前半：職業技術教育への支援

1980年代：構造調整による教育支出の削減

1990年代前半：基礎教育重視

✓「万人のための教育世界会議」(1990)

1990年代後半：高等教育の役割の再認識

✓「高等教育世界会議」(1998)

✓「ボローニャ宣言（制度共通化）」(1999)

✓「ユネスコ決議（質保証体制）」(2003)

2000年代：高等教育の大衆化の深化

（高等教育の輸出：米・英・豪）

1. 高等教育機関の新設・拡充  
(教育・研究能力の強化含む)
2. 産学地連携
3. 大学間ネットワークの形成
4. 留学生支援

### 従来型の支援

- ✓ 農工医学部の新設・拡充や改善のための技術協カプロジェクト、無償、専門家派遣、留学制度が中心。

### 近年の新たな傾向（従来型の支援に加え）

- ✓ 「支援の対象」から「協働パートナー」に  
(例：SATREPS)
- ✓ 本邦大学との永続的な人的・組織的ネットワークの構築 (例：SEED-Net)
- ✓ 過去の協力アセットの活用  
(例：ジョモケニアツタ農工大学/汎アフリカ大学)

## II. 高等教育の状況：JICAの工学系高等教育支援

### 途上国の現状

- ・域内産業の高度化
- ・地球規模課題への対応の重要性
- ・世界的な頭脳の流動化と優秀な人材の欧米への流出

### 工学系高等教育協力の意義

- ・国の経済成長を担う高度産業人材の育成・輩出
- ・イノベーションを創出できる高度技能人材の育成・輩出
- ・研究開発機能強化を通じた国や地域の課題解決の実現

### 日本の強みと日本にとってのメリット

- ・高度経済成長を支えた科学技術分野での優位性
- ・世界の「頭脳」の獲得
- ・日本の産業の世界的展開の支援

解決

### 【協力の目的】

- ・高度技術を有する工学系人材の育成
- ・科学技術の振興

### 【目的達成のためのアプローチ】

域内ネットワーク構築

拠点大学育成

留学支援

23

## II. 高等教育の状況：JICAの工学系高等教育支援

域内・日本との  
ネットワーク構築

- ・日本と途上国の科学技術分野での連携強化
- ・日本と途上国の頭脳循環
- ・日本の域内科学技術分野のリーダーとしての地位確立
- ・日本と各国トップ大学との人的ネットワーク形成

拠点大学育成

- ・各国の高等教育を牽引する拠点大学の育成
- ・高等教育セクターの底上げ(波及効果)
- ・現地産業界・日系企業への高度産業人材の輩出

留学支援

- ・日本との頭脳循環(優秀な学生・研究者の獲得)
- ・本邦大学の国際化の推進

### 【日本にとっての意義】

(外交) 域内科学技術分野のリーダーとしての地位確立

(学術) 各国トップ大学との人的ネットワーク形成、  
本邦大学による優秀な学生・研究者の獲得、本邦大学の国際化の推進

(産業) 現地日系企業へ高度人材の輩出  
資格共通化や工業製品の基準認証への影響力確保

24

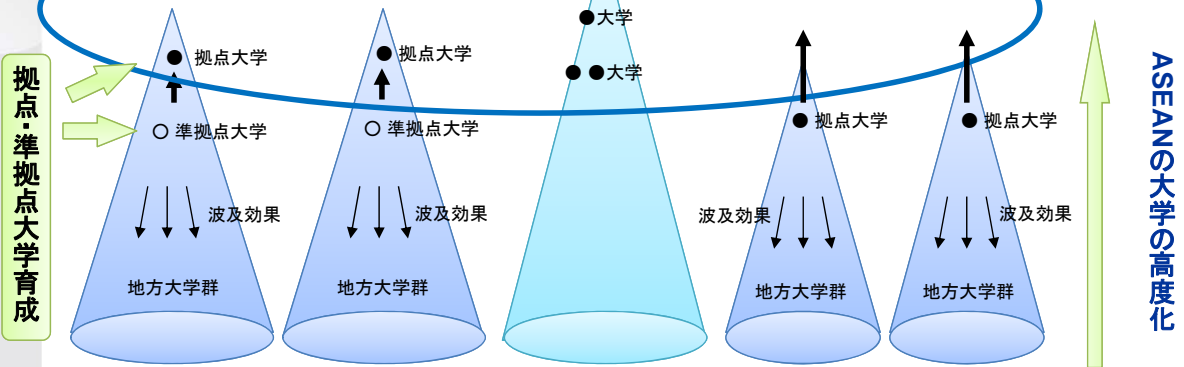
## II. 高等教育の状況：JICAの工学系高等教育支援

### 域内ネットワーク構築

アセアン工学系高等教育ネットワーク (AUN/SEED-Net)【技術協力】

### 留学支援

マレーシア高等教育基金【円借款】  
ラオス、カンボジア等【留学生無償】



**(中進国の大学支援)**  
【拠点大学】  
バンドン工科大学【円借款】  
スラバヤ工科大学【技術協力】  
マレーシア日本国際工科院【円借款】  
【準拠点大学】  
ハサヌディン大学【円借款・技術協力】

**ASEAN・日本の産業界  
への高度人材の輩出**

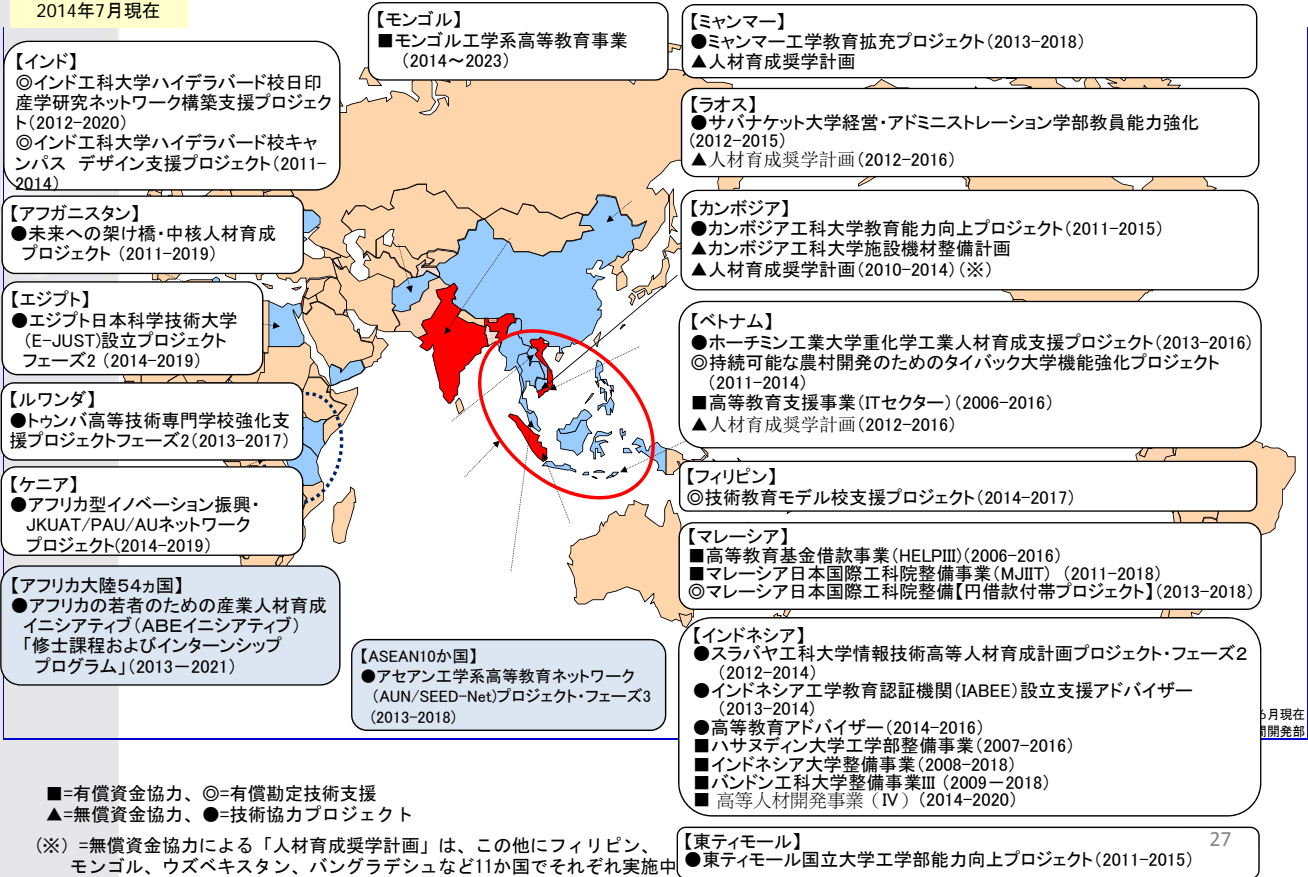
**(後発国の大学支援)**  
【拠点大学】  
カンボジア工科大学【技術協力】  
ヤンゴン工科大学、マンダレー工科大学  
【技術協力】  
ホーチミン市工科大学【技術協力(終了)】  
ラオス国立大学【技術協力(終了)】

## II. 高等教育の状況：JICAの留学生支援

制度名/項目	円借款留学生事業	人材育成奨学計画 (JDS)	長期研修員
概要	開発途上国の行政官、技術者、研究者等の育成・能力強化を行い、ひいては途上国の経済・開発政策の立案・実施能力の向上、産業技術・研究能力の高度化等に寄与するため、日本を始めとする海外への留学生派遣への支援を主眼とした円借款事業。	将来、社会・経済開発計画の立案・実施に関わり、指導者となりうる若手行政官等を日本の大学で学位を取得させ、相手国の人材の育成や日本の良き理解者として両国友好関係の基盤拡大と強化に貢献することを目的とする無償資金協力事業。	開発途上国のJICA事業のカウンターパートや相手国政府関係機関に所属する将来有望な若手の人物に対し、受入期間を1年以上として、総合的かつ高度な知識・技術を習得する技術協力事業。
主な対象分野	理工系中心のケースと、社会科学中心の場合あり。	主に社会科学分野。加えて自然科学系分野も対象。(本事業での実施が極めて有効な各国の重点分野、開発課題を選定)	JICAの技術協力プロジェクトに関連した分野。(主なプロジェクト：SEED-Net、ABEイニシアティブ、アフガンPEACE、SATREPS(複数))
対象学位	学士、修士、博士	修士のみ	修士、博士課程での受入が可能(2011年度より学位取得が目的ではない)
受入期間	短期受入(数ヶ月)～学部・博士3年間	原則2年間	原則修士2年間、博士3年間
対象国	インドネシア、マレーシア、ベトナム(過去に中国、ベトナム、チュニジア)	12か国：ラオス、ウズベキスタン、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ミャンマー、バングラデシュ、フィリピン、キルギス、タジキスタン、スリランカ、ガーナ(過去に中国・インドネシア)	ODA対象国
受入人数(年間)	254名(2012年度新規受入)	203名(2013年度新規受入)	108名(2012年度新規受入)
受入人数(累計)	6,883名(2012年度時点)	2,967名(2014年2月時点)	1,395名(2012年度時点)

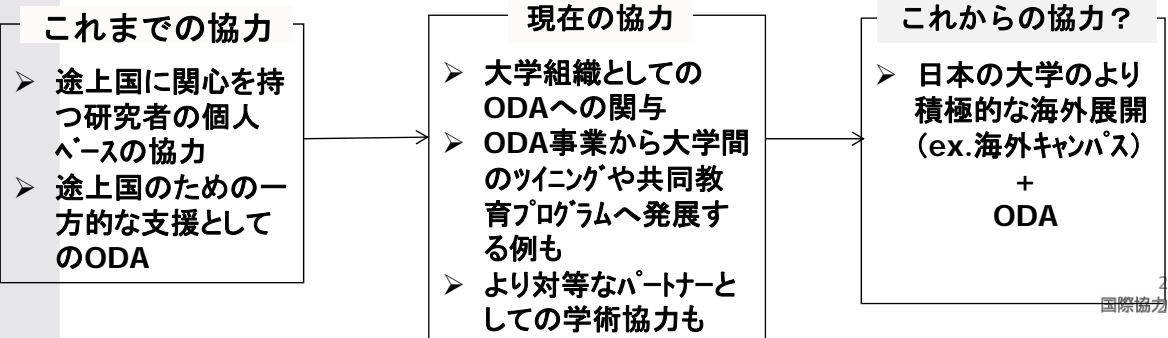
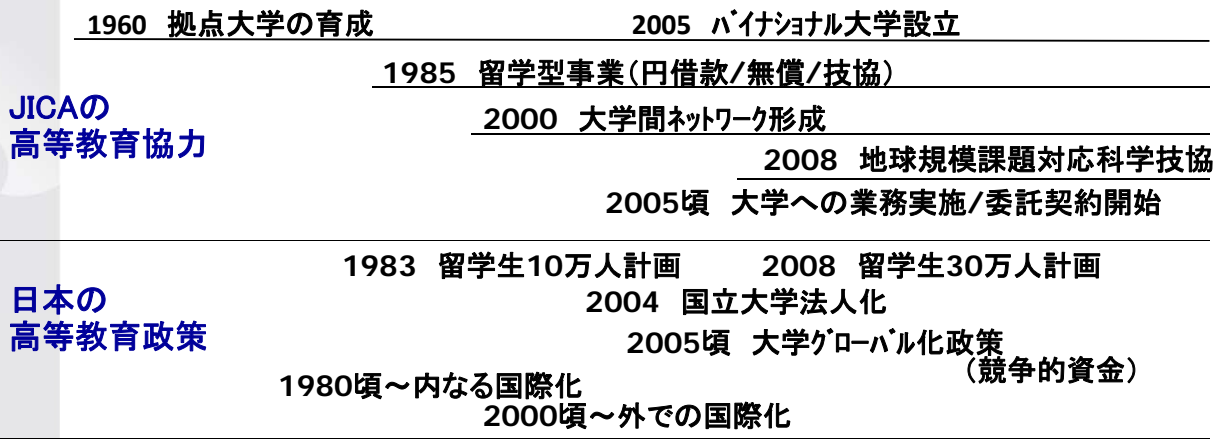
## II. 高等教育の状況：JICAの支援状況

2014年7月現在



5月現在  
開発部

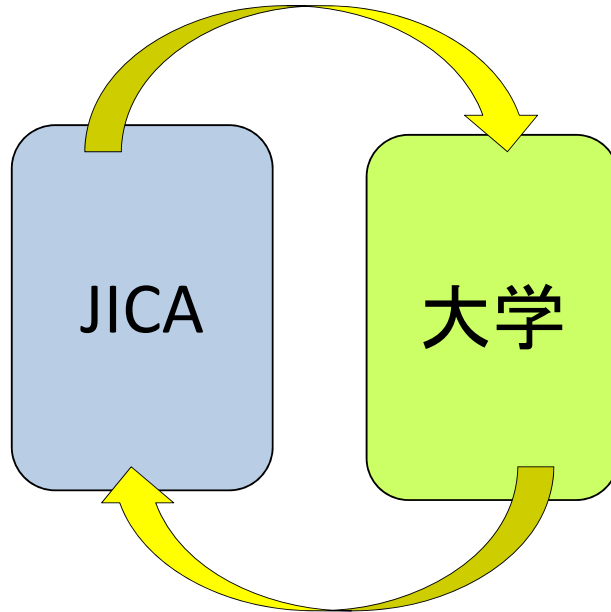
## II. 高等教育の状況：JICAの支援のこれから



### III. 今後の方向性: 大学への期待とお願い

#### 本邦大学とJICAの「相互補完」

・途上国の中核大学に対する支援では大学による専門的な支援が必要



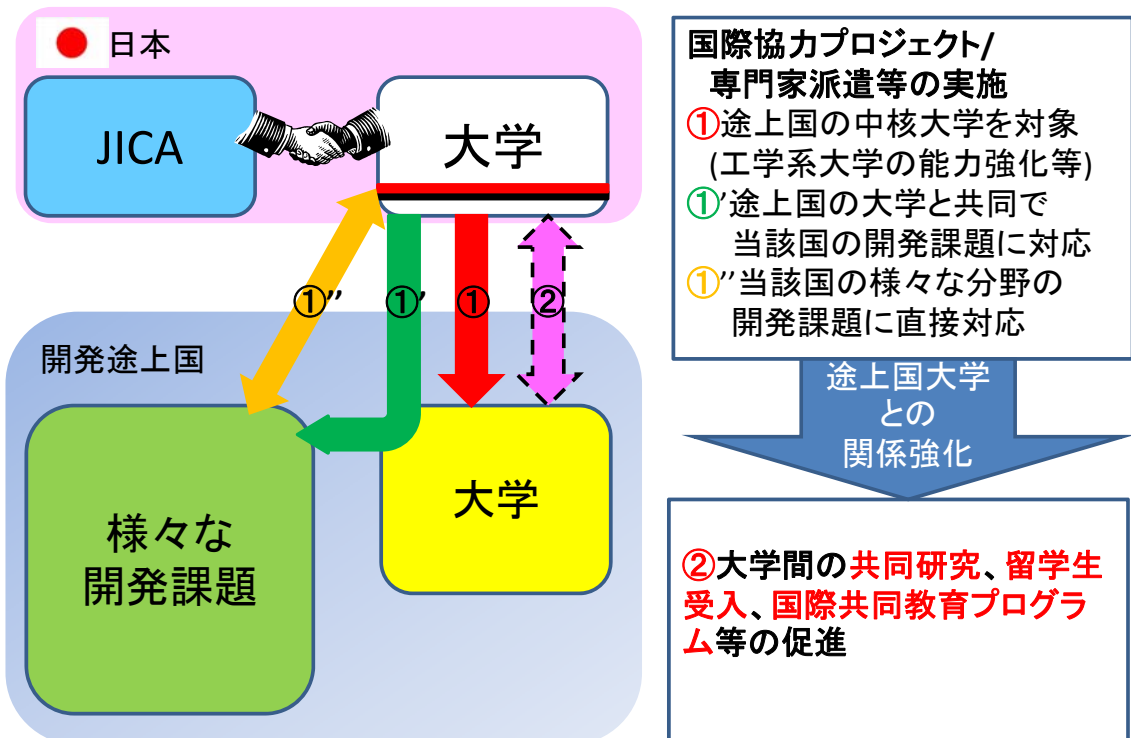
・(欧米諸国の大学等に先駆けて)各国の中核大学を先導する教員/研究者との人的ネットワークを形成・深化

・これらの大学の教育・研究レベルが向上すれば、共同研究や国際共同教育プログラムの形成・実施が容易

国際協力機構

### III. 今後の方向性: 大学への期待とお願い

#### 本邦大学とJICAの「相互メリット」



岸田外務大臣ODA政策スピーチ  
「進化するODA ～世界と日本の未来のために～」  
2014年4月4日

○新たな時代のODA

- (1) 第1の進化：国際社会の議論をリードするODA
- (2) 第2の進化：開発の土台としての平和、安定、安全
- (3) 第3の進化：様々な主体との連携の強化

## 主要事業の概要





# アセアン工学系高等教育ネットワーク (AUN/SEED-Net)プロジェクト

## プロジェクトの目的

東南アジア地域の持続的な発展に貢献するべく、域内に工学分野の人材育成のプラットフォームを形成することを念頭に、ASEAN域内大学間・本邦大学とのネットワークを強化しつつ、ASEAN各国のメンバー大学の研究・教育能力の向上をめざす。

## プロジェクトの課題

- (1) ASEANのメンバー大学教員の研究・教育能力の向上を図る。
- (2) メンバー大学と日本の支援大学間の教員同士の学術的ネットワークを強化する。
- (3) メンバー大学との連携活動を通じて域内産業の高度化に貢献する。
- (4) 学術的活動を通じて域内共通課題の解決に取り組む。

## 主な活動

- (1) 教員対象の学位(修士号・博士号)取得支援。
- (2) 産業連携や地域共通課題に関する本邦教員との共同研究。
- (3) 地域共通課題をテーマにした地域会議。
- (4) その他プロジェクト課題に関連する諸活動。

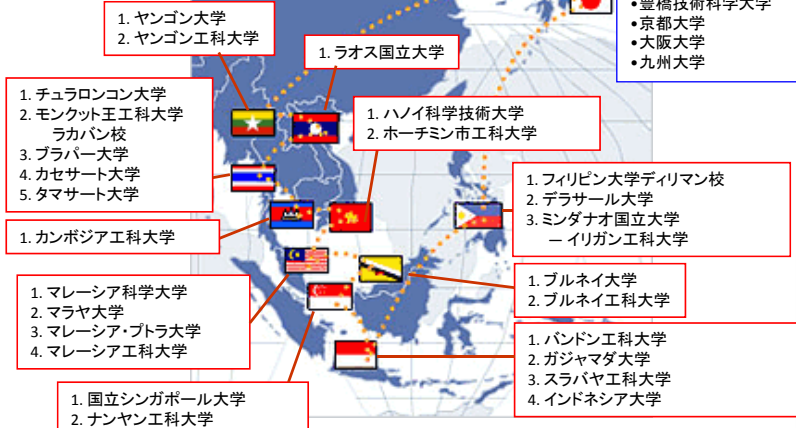
## フェーズ2までの成果

- (1) 教員の能力向上  
延べ900名の教員が修士号または博士号の取得(または取得予定)
- (2) 研究活動の質の向上  
本邦教員も参画した700件の共同研究と1000編の論文発表
- (3) Establishment of Network  
400名のASEANメンバー大学教員と200の本邦大学教員によるネットワークの構築

準備期間: 2001年4月～2003年3月  
フェーズ1: 2003年3月～2008年3月  
フェーズ2: 2008年3月～2013年3月  
フェーズ3: 2013年3月～2018年3月

ASEAN加盟10か国:  
26メンバー大学

日本:  
14支援大学



ASEAN各国と日本における工学分野  
40トップレベル大学のネットワーク

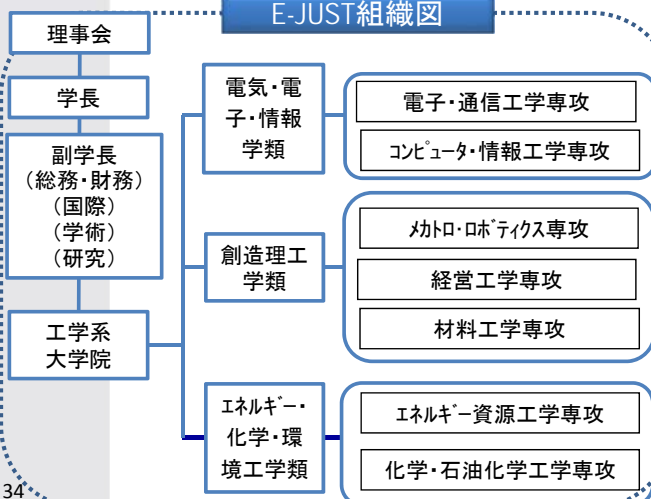


# エジプト日本科学技術大学(E-JUST)プロジェクトの概要

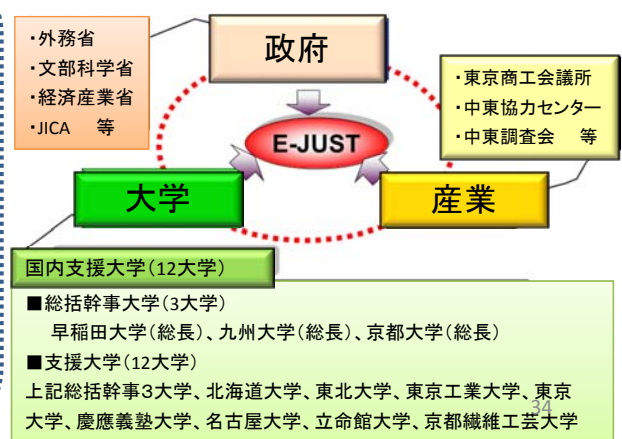
## プロジェクト概要

- ◆ 日本型の教育・研究を特徴とする、中東、アフリカ地域のモデルとなる科学技術分野の国立大学をエジプトに設立。特徴的な教育プログラム、研究重視の大学院中心の大学。
- ◆ フェーズ1(2008年10月～2014年2月): 大学設立・学生受入の準備、さらに国際水準の大学になるための教育・研究の基盤整備に係る支援を実施。
- ◆ フェーズ2(2014年2月～2019年2月): 大学運営能力の強化や教育・研究能力の更なる向上、エジプト・日本の産業界との連携強化に係る支援を実施中。
- ◆ 技術協力プロジェクトでは、本邦教員派遣、教育&研究用機材の供与、フェロースhipプログラム(本邦研修)等を実施。

## E-JUST組織図



## 国内支援体制



# アフガニスタン未来への架け橋・中核人材育成(PEACE)

## JICAの支援方針

- ◆オーナーシップ・リーダーシップの尊重
- ◆中長期的な支援
- ◆人々に届く支援



- 目標： 持続的開発を支える中核人材の育成 (最大500名)
- 期間： 2011年1月から2019年4月
- 対象分野： 都市開発・インフラ, 農業農村開発
- 対象省庁： 13 省庁・政府機関

鉱山省、公共事業省、水・エネルギー省、都市開発・住宅省、運輸航空省、農村復興開発省、農業牧畜灌漑省、麻薬対策省、外務省、財務省、カブール市役所、DCDA(デザフ新都市開発公社)、高等教育省(国立大学等)

## JICAの支援最重点分野

- ◆都市開発・インフラ整備分野
  - カブール首都圏開発
  - カブール国際空港
- ◆農業・農村開発分野
  - 関連省庁のキャパシティ・デベロップメント
  - 稲作支援
  - 水資源監理・開発
  - 農村開発・農業振興

## 学習機会 (修士課程\*) の提供

\*博士課程への受入も限定的に実施



### <受入人数>

- 1) JFY2011: 40 (199)
- 2) JFY2012: 54 (157)
- 3) JFY2013: 85 (154) (応募者数)

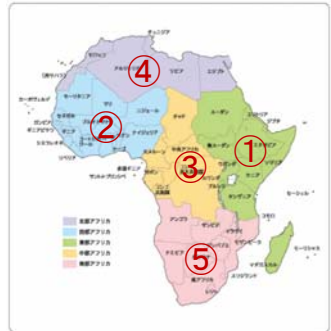
\*協力大学: 32大学44研究科 (2013年11月現在) 構



# 汎アフリカ大学 (Pan African University, PAU)構想

## PAUの概要

- PAUは、2008年にアフリカ連合(AU)が、域内の高等教育レベルの向上を図ることにより頭脳流出を食い止め、域内の経済・社会開発を担う人材を育成・確保するために立上げた構想。
- 新設ではなく、アフリカ域内の既存大学を活用した大学院大学。
- 具体的には、アフリカ全域を大きく5地域(東部・西部・南部・北部・中央部)に分け、各地域に分野別のホスト国・ホスト大学・支援パートナー国(LTP)を選定。



## 日本/JICAの支援

- PAUの東部地域拠点は、対象分野は「科学技術・イノベーション」、ホスト国は「ケニア」、ホスト大学は「ジョモ・ケニヤッタ農工大学(JKUAT)」となっている。「日本政府」は2013年1月に東部地域拠点のLTPに就任。
- JKUATに拠点を置くPAU STIは2012年に開校し、アフリカ11か国からの第一期生57名が就学中。
- JICAはJKUAT/PAU STIへの技術協力を2014年5月から開始予定。

## アフリカ連合(AU)

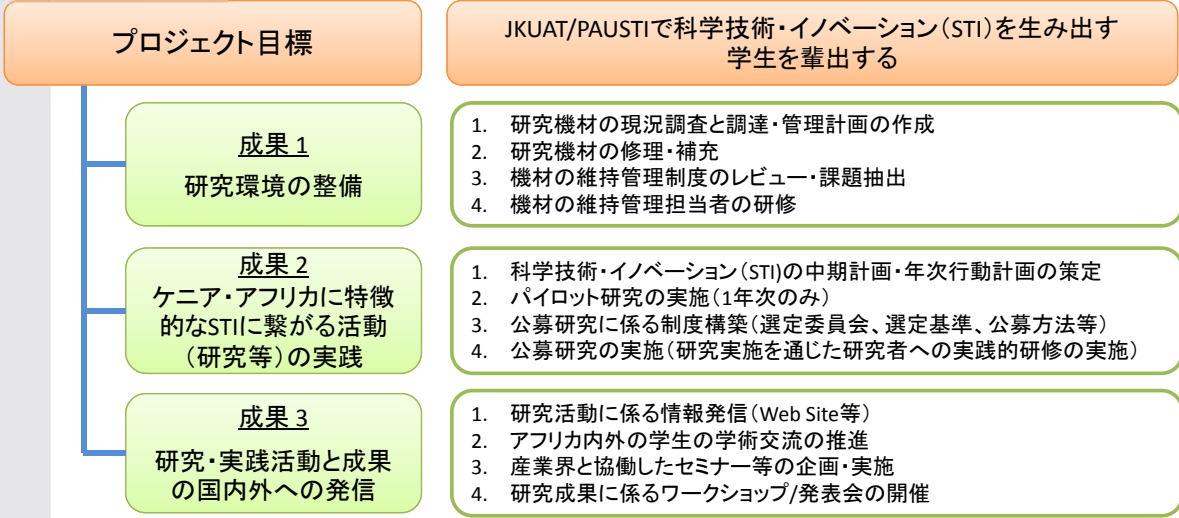
学長

	①東部	②西部	③中央部	④北部	⑤南部
学長	PAU STI	PAU LESI	PAU GHSS	PAU WES	PAU SS
分野	基礎科学・技術・イノベーション	生命・地球科学	ガバナンス・人文社会科学	水・エネルギー (含む気候変動)	宇宙科学
ホスト国	ケニア	ナイジェリア	カメルーン	アルジェリア	(検討中)
ホスト大学	ジョモ・ケニヤッタ農工大学(JKUAT)	イバダン大学 (Univ. of Ibadan)	ヤウンデ第二大学 (Univ. of Yaounde II)	トレムセン大学 (Univ. of Tlemcen)	(検討中)
支援パートナー国 (LTP)	日本	インド	スウェーデン	ドイツ	(検討中) <sup>36</sup> 構

# アフリカ型イノベーション振興・JKUAT/PAU/AUネットワークプロジェクト("AFRICA-ai-JAPAN Project")の概要



対象大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジョモケニアアッタ農工大学(JKUAT) (※PAUSTIのホスト大学)</li> </ul>
本邦支援大学 (6大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工学系: 京都大学、鳥取大学、長崎大学(予定)</li> <li>・ 農学系: 岡山大学、帯広畜産大学、くらしき作陽大学(予定)</li> </ul>
投入 (約6億円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期専門家: 4名(チーフアドバイザー、農学、工学、業務調整)</li> <li>・ 短期専門家: 10人月(大学・産業界の専門家)</li> <li>・ 本邦留学: 6名(JKUAT教員の博士号取得)</li> <li>・ 本邦研修: 20名(JKUAT教員の本邦大学での研修。農業・工学分野)</li> <li>・ 機材供与: 研究用機材</li> </ul>



# ABEイニシアティブ「修士課程・インターンプログラム」

## 目的・内容

- ・ アフリカ各国それぞれの開発優先セクターのうち、日本企業の活力が生かせる(進出が見込める)分野をターゲットに、本邦民間企業や大使館・JICA等、日本側から現地の有望な人材をリクルート・推薦し、日本に受け入れ。
- ・ 日本社会や日本企業に理解を持ち、日本企業進出の水先案内人たるアフリカの高度産業人材の育成を目指す。

